

熊野神社崇敬者の皆様へ

◎心配された御神木が見事に復活。これぞ神業！

熊野本宮大社の聖地である「大斎原」に樹生していた榊と榊(なぎ)の御神木。この2本は平成23年9月の台風12号にも耐え抜いた強靱な生命力を兼ね備えた由緒ある御神木です。川越に到着直後、同年12月11日に植樹祈願祭を執行し、作業の安全と2本の御神木の大きいなる生長を祈願致しました。

しかし、紀伊の温暖で湿潤な気候と違い、当川越地区の冬は、それと比べて寒さが厳しく空気が乾燥しているため、特に榊の木へのダメージがひどく、年を越す頃には、葉が全て枯れ落ちてしまいました。樹木医に診て戴いたところ、「99%難しいでしょう。」とのこと。残る1%を問うたところ、「神様の御神徳をいただければ・・・。」との弁。寒さが厳しい間は、榊の木に寒冷紗を掛け、その上からビニールで覆って寒風を遮った。夜は電灯を灯し、少しでも冷気からのダメージを減らすようにした。その結果、春になり(いつまでも寒気の抜けない春でしたが)暖かな日差しに包まれるようになると、何と枯れたような枝から榊の新芽が芽吹き始めたのです。何という奇跡でしょうか。これぞまさしく神様の御神徳。勿体ないやら嬉しいやらの瞬間でした。その後も祈るように見守り続けていると、力強い立派な若葉が数多く茂ってくれました。この冬も寒冷紗を掛け、無事来春を迎えることが出来れば、もう安心でしょう。



(植樹祈願祭)



[榊(なぎ)]

[榊(さかき)]

◎百年二百年後の「鎮守の杜」のために

「鎮守の杜」、「御神木」という言葉があるように、昔から神社にとって樹木は神様が御宿りになる依り代にもなりうる、神聖で大切なものであります。従って、百年二百年単位の長い目で鎮守の杜を考える必要があります。未来永劫子々孫々この熊野神社の杜が、参拝される人々の心を癒やし清々しくお参りできるように、多くの人々の心に安寧と感謝をもたらすように、現存する樹木を健全に保持管理することが、次代に引き継ぐ我々の責任であります。

①腐朽部切除及び被覆処理



この作業は、腐朽部の余分な露出部を切除して、残った腐朽部に浸透性プレポリマーを含浸させて、強化いたします。その後切除部表面を被覆処理して雨水侵入や、鳥類(カラス等)による処理部分の損傷を未然に防ぎ、樹木自身によるカサの発達を促し、腐朽部の閉塞を目指します。

②タマリユウ植栽



現状裸地になり、表層が固結して、雨が降っても水分が、土中に染み込む量は少なく、多くの雨水は、排水口に流れているのが現状である。これではいくら雨が降っても樹木特に根の深い、高木類は慢性的な渇水状態になり、樹勢衰弱の一因になっている。このことを改善するために、根系の範囲にタマリユウ等地衣類を植栽し、雨激、踏圧等による、表土の固結を緩和し、雨流水による表面土壌の流失も緩和することができる。

平成25年1月1日

熊野神社社務所